卒業研究の手引き

2026-2027 年度版

常葉大学外国語学部　英米語学科

©常葉大学外国語学部 英米語学科
2026

〒422-8581 静岡市駿河区弥生町 6-1

表紙写真　©Tokoha University

目次

１．はじめに 1
２.「卒業研究」のイメージをつかむ 1
1) そもそも「研究」って何だろう？ 1
2) 外国語学部の「卒業研究」とは？ 2
3. 学修・研究プロセス 2
1) 専門セミナーIIA、IIB の履修 2
2) 中間発表 2
3) 論文・研究調査の執筆と提出 3
4) 最終発表 3
5) 合否・成績 3
4. 原稿の様式 3
1) 文書形式 3
2) 文字数（語数） 3
3) 基本構成 4
5. 提出 4
1) 締切 4
2) 提出先 4
3) 提出形式 4
6. 研究倫理―やってよいこと、いけないこと 4
1) 学生も「研究者」です。 4
2) 研究不正とは何か？ 5
3) 個人情報の取扱とインフォームド・コンセント 5
4) AI をどう使うか 5
5) 研究不正への対処 6
7. 論文の執筆 6
1) 客観性を心がけよう 6
2) 常体（「・・・である」）の使用 7
3) 出典の表示 7
8. 分野別の執筆要領・サンプル 7
1) 共通部分 7
2) 言語学 9
参考文献リストの作り方（言語学・英語学編） 15

3) 英語教育学・応用言語学（APA スタイル） 18
4) 文化研究 (1. MLA スタイル) 25
5) 文化研究 (2. 注釈スタイル) 31
9. 参考文献・資料 39

付録

1. 「学生のための研究倫理について」『学生便覧』令和 7 年度版. 41
2. 「教育・研究における生成系 AI（人工知能）利活用に関するガイドライン」. 42
3. 「注意事項：AI 生成文書および翻訳ソフトの使用に関する指針. 43

1. はじめに

外国語学部の卒業要件（必修科目）には、「専門セミナーI・II」が含まれています。3 年生で「専門セミナーI」を学修し専門研究の基礎を学んだあと、4 年生になって受講する「専門セミナーIIA・B」では、皆さんひとりひとりが研究課題を設定し、探究する「卒業研究」を行います。「卒業研究」は、在学中に積み重ねていく学修の到達点を示すという意味で、学生生活のなかでももっとも重要な課題と言えるでしょう。

「卒業研究」の趣旨は学術的な成果を生み出すことであり、単なる勉強を超えた創造的な行為です。1 年間という時間をかけて研究プロジェクトにたずさわるなかで、自分自身が成長していくことも実感できます。皆さんの力を存分に発揮し研究を完成させ、成長した新しい自分と出会うためにも、この『手引』を十分に活用し、最終学年にふさわしい研究を完成させましょう。

2.「卒業研究」のイメージをつかむ

1) そもそも「研究」って何だろう？

「卒業研究」は文字通り「研究」の一種です。では、「研究」とは何でしょうか？「勉強」と「研究」はどう違うのでしょう？

「勉強」とは、知識や考え方を理解し覚えること。本などの情報ソースから、すでに「正しい」とわかっていることを学び、その内容をまとめることが「勉強」です。

これに対して「研究」とは、自分自身の力で何かを明らかにする能動的な行為です。「正しい」か「正しくない」かは、判断材料を集め、論理的・客観的に考察することで、自分自身で判断します。

「研究」では、1) 何を明らかにしたいのか（研究テーマ）、2) テーマについてすでにわかっていることは何か（先行研究）、3) どんな方法を使って明らかにするのか（研究方法）、4) 明らかになったことをどのように解釈するのか（考察）、というプロセスを意識する必要があります。単に先行研究（すでにわかっていること）を述べ直しただけでは「研究」ではありませんし、逆に、先行研究との照らし合わせをしないと、そもそも自分の研究が本当に新しいことを明らかにしたのかどうかもわかりません。研究や調査の方法は、学術的・科学的でなければいけませんし、結果を並べるだけで、分析や考察がないものも「研究」としては失格です。

「研究」とは新しい学術的な貢献です。そして自分以外の学生や先生、研究者が、その「新しい」ことをきちんと理解してくれなければなりません。つまり、新しい知見を「公的」なレベルで共有するものなのです。そのためにも上で述べた手続きを守って、進めていく必要があるわけです。

2) 外国語学部の「卒業研究」とは？

外国語学部が認める「卒業研究」は、ひとりひとりの学生が個人単位でおこなうもので、「論文」、または「研究調査」報告書などの形をとります。

「論文」とは、主として文献研究やデータの分析を中心に、理論的・実証的に論じる研究形式です。「研究調査」とは、アンケート、インタビュー、観察などを通じて自らデータを収集し、その分析結果を報告する研究形式です。なお、「研究調査」のもととなるフィールドワークや活動は複数人でおこなう場合もありますが、その成果や結果を「卒業研究」としてまとめる際は必ず個人単位で作成します。

「論文」「研究調査等」ともに、以下の条件を満たす必要があります：

① 執筆言語：日本語または英語
② ４年間の学修成果としてふさわしい課題設定
③ 適切な研究手法
④ 体系的、論理的に論じられていること。
⑤ 体裁が整っている：文字数（語数）要件、要旨、目次、章立て、参考文献等
⑥ 上記以外で、指導教員が指定する　要件をそなえていること。

3. 学修・研究プロセス

卒業研究を完成させるためには、文書による論文・報告の提出だけでなく、1 年間にわたる学修・研究のプロセス（「専門セミナーIIA, IIB」）を経る必要があります。3 年次の「専門セミナーIA, IB」も入れれば、プロセスは 2 年間にわたります。以下にあげたすべてのステップを完了させて初めて卒業研究は完成し、成績評価の対象となります。

1) 専門セミナーIA、IB の履修（3 年次）

専門セミナーIA、IB を受講し、4 年次の卒業研究に必要となる専門知識、理論、研究方法などの基礎を学びます。なお、分野によっては 3 年生の段階で、研究に必要なデータの収集を開始する場合もあります。

2) 専門セミナーIIA、IIB の履修

通常の授業と同様、4 年次の専門セミナーIIA, IIB を受講し、卒業研究を進めます。

3) 中間発表

専門セミナーIIA の一環として、7 月に研究の進捗度を聴衆の前で報告する「中間発表」会があります。具体的な発表の方法については指導教員の指示にもとづきますが、スライド、ハンドア

ウト、発表原稿などの準備が必要となります。

4) 「論文」「研究調査」の執筆と提出

「論文」または「研究調査」を文書の形で作成し、プリントアウトし、1 月第 2 水曜日の締切までに提出します。研究のまとめ方、執筆の仕方など、詳しくはこの『手引』を参照したうえで、指導教員の指示にしたがってください。

5) 最終発表

提出後、1 月下旬から 2 月上旬にかけての時期に「最終発表」会が開催され、卒業研究で何を達成できたのかを口頭で発表します。「中間発表」のときと同様、スライド、ハンドアウト、発表原稿などの準備が必要となります。

6) 合否・成績

「卒業研究」の合否と成績は、「専門セミナーIIB」の成績として発表されます。毎週のセミナーの取り組みと、中間・最終発表、そして論文・報告をすべて合わせて成績が算出されます。

4. 原稿の様式

1) 文書形式

・MS Word（.docx）形式

・A4 の白紙の片面に印刷（電子媒体での提出は認めません）。

・余白のレイアウト：上・下 25mm、右　25mm、左 30mm（左綴じとするため、右よりも 5mm 多く とりま す）。

・フォント・一行文字数・行数：

和文：MS 明朝など、明朝系のフォント。英語引用等については Times New Roman。

10.5 pt、40 文字×30 行（1,200 文字）

英文：Times New Roman、12 pt、30 行（1 行字数は自動設定されます。）

2) 文字数（語数）

指定文字数・語数は、和文、英文ともに論文本体の「本文」を対象とします。要旨、独立引用、図表、キャプション、注、参考文献等は字数・語数に含めません。

和文：12,000 字以上（＋英文要旨 400 語程度）

MS Word の「ツール」→「文字カウント」を使い、「文字数（スペースを除く）」でカウントしてください。英語の語句やローマ字については、2 文字で 1 文字とカウントします。

算出方法：

文字数（スペースを含めない）　①
全角文字＋半角カタカナの数　②
半角英数字の数　①−②=③
半角英数字換算　③÷2=④
総文字数=②+④

英文：3,000 語以上（＋和文要旨 1,000 字程度）

MS Word の「ツール」→「文字カウント」を使い、「文字数（スペースを除く）」でカウントしてください。

3) 基本構成（詳細は末尾の「サンプル」を参照してください。）

・表紙
（・謝辞）
・目次
・要旨
・本文（脚注）
（・注［後注の場合］）
・参考文献（引用文献）
・付録

5. 提出

1) 締切：4 年次の 1 月第 2 水曜日（2027 年度卒業予定者は 2028 年 1 月 12 日）

2) 提出先：指導教員（専門セミナーII 担当教員）

3) 提出形式：

プリントアウトし、左側をホチキスまたは綴りひも等で綴じてください。指導教員によっては、綴じ込み表紙やファイルバインダーの使用を指定する場合があります。

指導教員に 1 部提出し、自分用にプリントアウトをもう 1 部用意し、保管してください。

6. 研究倫理——やってよいこと、いけないこと

1) 学生も「研究者」です。

学生の皆さんも研究にたずさわるときは「研究者」です。『学生便覧』にもあるように、「『研究者』は、学生であっても、教員であっても、正しい心得を持って研究していくことが強く求められています。この正しい心得のことを大学内では『研究倫理』あるいは『行動規範』と呼んでい

ます。・・・研究倫理とは、研究者のあるべき姿、研究者が研究をするときに守るべき規則のことです」（令和 7 年度版、p. 197。「付録 1」）。

2) 研究不正とは何か？

研究においてやってはいけないことを「研究不正」といい、『学生便覧』（令和 7 年度版、p. 197）では以下の 3 つをあげ、厳しい懲戒処分の対象になるとしています（わかりやすくするため、一部表現を変えています）。

•捏造（Fabrication）

存在しないデータを都合良く作ること。

•改ざん(Falsification)

① データの変造や偽造のこと。クッキング（都合のよいデータだけを選んで使う）やトリミング（都合の悪いデータを切り捨てる）も含む。

② 研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データや結果を真正でないものに加工すること。

•盗用・剽窃（Plagiarism)

他人のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、文章または用語を適切な出典表示なく流用すること。文章やデータのコピー＆ペーストも含まれる。

3) 個人情報の取扱とインフォームドコンセント

・個人情報の取扱

「研究や学びを行っていく際に、他人の個人情報・データを収集したり分析したりすることがあります。他人の個人情報を扱うときに、個人情報保護法に則ってデータを扱い管理する必要があります。」（『学生便覧』令和 7 年度版、p. 197）

・インフォームドコンセント

「個人情報を扱う際には、研究の対象者から情報を得るときに、インフォームドコンセント（説明と同意）が必要になります。そして、研究内容を公表する際に、これら情報から個人を特定できないように匿名化しておく必要があります。さらに情報漏洩を防止するために、厳重な管理が必要です。」（『学生便覧』令和 7 年度版、p. 197）

4) AI をどう使うか

ChatGPT、Grok、Gemini、Copilot などの生成系 AI は、情報収集や調査ばかりか、文章の校閲や執筆までしてくれる便利なツールであり、私たちの日常生活に深く入り込んでいます。翻訳や通訳の機能も AI の出現により日進月歩で進化しています。

しかしその反面、AI の安易な利用は研究不正にも匹敵する問題行動と見なされる危険性があります。そのため常葉大学は 2024 年 2 月に、教育研究における AI 利用の指針を制定しました（「付

録 2」)。英米語学科でも、2024 年 3 月 22 日付けで「注意事項：AI 生成文書および翻訳ソフトの使用に関する指針」(「付録 3」) を出し、警告をおこなっています。その要旨は以下の通りです：

1. AI が生成する文章は正確性に問題があり、著作権の無視により違法となる可能性もある。AI を課題や学習の代替手段としてはならない。
2. 翻訳ソフトは、英文の正しさの確認等に使うべきで、学習の置き換えとしてはならない。
3. 授業の課題・レポート・プレゼン資料等の作成において AI 生成文書や翻訳ソフトの使用は原則禁止。**違反した場合は厳正な措置を取る。**

5) 研究不正への対処

これまで述べた項目 1)～4)の内容から、英米語学科の卒業研究には以下の指針を適用します：

① 研究不正

・ねつ造、改ざん、盗用・剽窃、AI の不適切な使用など、研究不正行為には厳正に対処する。

・卒業論文の提出後、あるいは卒業後においても、不正行為が判明した場合には、学位を取り消すことがある。

② 剽窃の防止・出典表示

・引用・参照した文献や資料の表示をおこたった場合は、指導教員・学科による指導のうえ、修正や再提出を求めることがある。悪質な場合は剽窃行為・研究不正と見なす。

③ AI の適切な使用

・卒業研究は、学生自身の研究・思考・分析に基づいて執筆する。生成系 AI を含むツールの使用は、資料検索や文章表現の修正や補助などにとどめ、AI による文または文章の出力をそのまま転載することは認めない。

7. 論文の執筆

1) 客観性を心がけよう

・自分以外の第三者が理解できるよう、記述・説明は客観的なものにします。原則として、自分の気持ちや「思い」は入れません。

・文章は簡潔に。必要以上のことばは使わず、無駄に長くしない。

・文学的表現、比喩も原則として使いません。

・主張や結果は明確に。「・・・は正しい」「・・・は誤っている」「・・・であることがわかった」「・・・については解明できなかった」など、あいまいにならない表現をしてください。

2) 常体（「・・・である」）の使用

文体には常体（「・・・である」「・・・だ」）を用い、敬体(「・・・です」「・・・ます」)は避けてください。

3) 出典の表示は義務です。

卒業研究は学術的な貢献であり、過去の研究の積み重ねに基づいて、独創性のある議論を展開し新しい知見を示します。そのためにも(1)自分自身で得たデータや、独自の考察・解釈と、(2)先行研究や既存のデータですでにわかっていること、この 2 つを明確に区別する必要があります。また、どの先行研究に言及し、どこから得たデータを議論しているのかなどが、読者に明確にわかるように書かなければいけません。

そのため論文や報告には「出典」の表示が義務づけられています。すでに「6. 研究倫理」の「5) 研究不正への対処：② 剽窃の防止・出典表示」でも述べたように、他人の考えや既存のデータ（先行研究）を論文で利用する場合、本文や脚注のなかで出典を明示します。

出典の示し方は分野によって異なり、次節の「8. 分野別の執筆要領・サンプル」では典型的な 4 つの方式をサンプルとともに示します。指導教員のアドバイスにしたがい、自分がどの方式を使ったらよいか、研究の早い段階で意識するよう努めてください。

8. 分野別の執筆要領・サンプル

出典の示し方も含め、論文や報告には「書き方」があります。特に英語系の研究では、アメリカを中心に詳細な書き方の規則が定められています。書き方の規則（スタイル）は大きく 4 つに分かれます。言語学は**言語学**専用の書式を使い、応用言語学や英語教育学では **APA** 方式と呼ばれる書式を使います。文化研究では **MLA** 方式、あるいは**注釈スタイル**（**documentary-note system**; **Oxford スタイル**とも呼ぶこともあります）が主流です。

以下では、まず、すべてのスタイルにおおむね共通する「共通部分」を紹介し、その後分野別の例を示します。

1) 共通部分

「表紙」「謝辞」「目次」「要旨」はどの分野にも共通します。次ページのサンプルを参考にしてください。

ただし、細部は分野の下位区分や指導教員の考え方で変わってきます。最終的には指導教員の指示にしたがってください。

1. 表紙

卒業論文

XXX における〇〇〇の研究太字 MS 明朝、Times New Roman, 22-ポイント活字

—副題は少し小さく 18 ポイント活字—

English Title in 18-Point Font:

Subtitle Following a Colon

（氏名以下は 16 ポイント太字）

氏　名

TOKOHA Taro

22220000

常葉大学外国語学部 英米語学科

2028 年 1 月

2. 謝辞

謝辞

（太字、14 ポイント）

本研究の実施に際し、〇〇大学〇〇学部の〇〇〇〇先生には、複数回にわたり担当授業の参与観察をお許しいただき、質問紙調査およびインタビュー調査にもご協力を賜りました。受講者の皆様からは、質問紙への真摯なご回答とインタビューを通して、貴重な研究データをご提供いただきました。

また、△△大学〇〇〇学部の□□□□先生には、参考資料や研究情報をご提供いただくとともに、本研究の理論面および方法論に関して懇切丁寧なご指導・ご助言を賜りました。

お忙しい中、本研究にご協力くださいましたすべての皆様に、この場を借りて心より厚く御礼申し上げます。MS 明朝・Times New Roman 10.5 ポイント

3. 目次

目次

（MS 明朝、太字、14 ポイント）

謝辞 MS 明朝・Times New Roman 10.5 ポイント ii

Abstract v

第 1 章 序論 1

1.1 研究の背景 . . . . . .

1.2 本研究の意義 . . . . . .

1.3 本論文の構成 . . . . . .

第 2 章 先行研究の概観 . . . . . .

2.1 先行研究 . . . . . .

2.2 リサーチクエスチョン . . . . . .

2.3 研究方法 . . . . . .

第 3 章 〇〇〇〇 . . . . . .

3.1 . . . . . .

3.2 . . . . . .

3.3 . . . . . .

第 4 章 △△△△ . . . . . .

4.1 . . . . . .

4.2 . . . . . .

4.3 . . . . . .

結論 . . . . . .

注 . . . . . .

参考文献（または引用文献） . . . . . .

付録 . . . . . .

質問紙 . . . . . .

自由記述データ . . . . . .

4. Abstract（要旨）

Abstract

(Bold, Times New Roman, 12-point)

(Times New Roman, 10.5-point) The *Godzilla* series is the pinnacle of Japanese monster movies. The eponymous giant monster is over 50 meters long and attacks with atomic beams from its mouth. The first movie that featured Godzilla was released in 1954. The 70th anniversary of the film was celebrated in 2023, and *Godzilla Minus One* was screened to commemorate the occasion. It was a huge hit not only in Japan but also in the US. It is the first Asian film to win Best Visual Effects at the 96th Academy Awards. In my thesis, I investigated why the Japanese Godzilla was so highly acclaimed in America by examining critical articles and commentaries as well as academic books and papers.

In the first chapter, I discussed the monster Godzilla in films. First, I took up the Godzilla of 1954. The story is about a giant creature called Godzilla . . . .

In Chapter 2, I discussed the history of Godzilla in the US. *Godzilla, King of the Monsters* was screened in 1956 as the US version of. . . .

Chapter 3 investigated the American evaluation of *Godzilla Minus One*. I collected and researched a number of online reviews. . . .

The discussions of these chapters have revealed that Godzilla culture is deeply rooted in the US. Its success there should be, at least partly, due to the fact that. . . .

2) 言語学

見出し：MS ゴシック（太字）14 ポイント

著者が３名以上：最初の人+et al（日本語は「他」.）著者が２名：&で結ぶ。（日本語は and ではなく「・」を使う。（名前が長く、後で何度も使う時には略称を作る。）

第１章　序論

字下げ

タイトルと本文の間は１行あける

英語の助動詞（modal auxiliaries）は、話者の判断・可能性・義務・推量などを表す重要な文法要素であり、英語意味論および語用論研究において中心的な研究対象であり、これまで様々な分析、分類がなされてきた（cf. Quik et. al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)（以降、H&P (2002)と略す）、Huschová(2015)等）。柏野(2010)によると、助動詞は単一の意味を持つのか、それとも複数の意味が拡張した結果なのかという問題は、モダリティ研究の基本的論点である（柏野(2010)：8）とされている。特に本研究が取り上げる could は、多義性（polysemy）を持つ典型的な助動詞で、could には「過去の能力」「丁寧な依頼」「仮定的可能性」「推量（epistemic modality）」「控えめ表現（hedging）」など多様な意味があることが指摘されている（Quik et. al. (1985):1025）。

文献に言及するときは「筆者の姓（発行年）

研究の背景

以下の例を観察する。

例文番号（最初から最後まで通し番号にする）複数例文を提示するときは、a,b, c‥にする。頭位置を揃える

(1)　a.　I could swim when I was five.（能力）

b.　Could you help me?（依頼）

c.　It could be true.（可能性）　（柏野（2010）：12）

例文の前後は１行ずつあげる

出典情報を記載（著者（発行年）：掲載ページ）

このような意味の広がりは、単なる文法変化ではなく、意味的拡張（semantic extension）および語用論的再解釈の結果であると考えられ、コーパスや Web データを用いての研究がみられる（cf. Huschová(2015)）。そこで本研究は、助動詞 could の主要用法を整理した上で、Web 上の実例を観察、分析し意味的拡張の過程を検討する。そして、could の意味体系を統合的に説明するモデルを提案することを目的とする。

研究の目的

本研究の構成は以下である。２章では、could の意味的特徴をまとめる先行研究を概観し、could の基本的用法をまとめる。３章では、Web コーパス（ニュース・ブログ・学術記事）から could の使用例を分析し、それを意味分類による定性的分析を行う。第４章で本研究をまとめる。

論文の構成

本文の書式：日本語は MS 明朝／英語は Times New Roman（どちらも 10.5 ポイント）

余白：上下　25mm、左　30mm、右　25mm　　ページ番号：本文の最初が１ページ目とする。

1

第 2 章　先行研究

本章では、本研究が考察対象とする助動詞 could の基本的特徴を先行研究から明らかにする。

2.1 モダリティ研究の理論的背景

小見出し：MS ゴシック（太字）10.5 ポイント

まず、助動詞のモダリティー（modality）的側面について明らかにする。

命題に対する話者の態度を示す言語的手段である。英語助動詞は一般に以下の三分類で説明される。

通し番号、タイトルをつける。

表の前後は 1 行ずつあげる

表 1 ：モダリティの 3 分類

モダリティ	内容	例
Dynamic	能力・状況	can swim
Deontic	許可・義務	may go
Epistemic	推量・可能性	might be

文献と同じ表の場合：出典と同じように書く。
文献を参考に自分で作る場合：出典情報＋筆者が作成をつける。
完全オリジナルの場合：筆者による作成と書く。

（Quirk et al.(1985): 123 を参考に筆者が作成）

Huschová（2015）は学術英語における modal verbs の使用を分析し、can/could が「可能性」を表す際、“modal verbs … can be employed as hedging devices.”（Huschová (2015）:10) と述べ、could は断定を避け、学術的慎重さを示すヘッジ表現として機能することを明らかにしている。

間接引用：英語は""、日本語は「」で囲む。後ろに出典情報を書く。

Najim & Sabir（2019）は新聞コーパスを用い、can/could の多義性を分析することで、これらの助動詞には可能性用法が最も頻度が高いこと、探索する分野によって意味分布が異なることを明らかにしている。また、柏野 (2010)は、以下のように、助動詞の用法の多義をまとめている。

直接引用：例文番号をつける。前後 1 行あける。
右側を 2 文字分インデントする
引用情報を書く。

(2) 多義説を唱える人は根源的な意味や認識的な意味を意味論的な意味（semantic meaning）と捉えているのに対して単義説を標榜する人はそれらを中核的な意味から派生する語用論的な意味（pragmatic meaning）と捉えているという点でこの両者は根本的に異なる。　（柏野(2010)：21）

このように、先行研究によって could の基本的な用法と分析の方向性が示された。そこで次章では、could の意味的拡張について web での使用例を採集、分析しながら could の基本的な意味から多様な意味へと拡張がみられることを明らかにする。

章（節）のまとめを最後の段落に書く。最後の行では、次の章（節）につながるように文を工夫する。

第 3 章　could の意味的拡張

前章では、先行研究によって could の基本的な用法と分析の方向性について概観した。本章では、could の意味的拡張について web での使用例を採集し、それを用法ごとに分析し、could の基本的な意味がどのように多様な意味へと拡張しているのかを明らかにする。

以下の web からの検索例を観察する。

Web からの引用は元のページの情報を書き、web アドレスを脚注に入れる。

(3) a. SixDegrees.com was the first true social networking site... members **could** create profiles for themselves..."　(Britannica[1]：太字は筆者による)

b. It **could** turn into something... (The New York Times[2]：太字は筆者による)

例文を自分で加工（太字、イタリック、下線等）した場合は、そのことを書く。

分析の結果、本研究では、以下のような意味拡張モデルを提案する。

図 1：意味拡張モデル

図も表と同じように書く。ただし、表と図は分けて書く。

推量（epistemic）
↑
仮定可能性
↑
能力　→　状況可能性　→　丁寧依頼

（筆者による作成）

＜略＞

[1] Social Media, Britannica（https://www.britannica.com/topic/social-media（最終閲覧日：2026 年 2 月 27 日）

[2] Why Davis Mills is happy the Texans unexpectedly picked him, The New York Times（https://www.nytimes.com/athletic/2602287/2021/05/21/it-could-turn-into-something-why-davis-mills-is-happy-the-texans-unexpectedly-picked-him/）（最終閲覧日：2026 年 3 月 1 日）

第 4 章　結語

本研究では could の意味的拡張を Web 使用例から分析し、中心意味は能力ではなく「潜在可能性」へ移行していること、現代英語では epistemic 用法が主要機能となっていること、丁寧表現は意味弱化の結果であることを明らかにした。その上で、図 1 の could の意味拡張モデルを提案した。本研究により、could を含む実例を web 検索によって収集したことで could の多様な意味拡張の例を見出したこと、および、could の多義性は独立した意味集合ではなく、連続的意味拡張としてとらえることができることが明らかにされ、記述、理論の両面から could の実態に迫ることができたと思われる。

全体のまとめ

今後の課題として、could 以外の他の助動詞にも図 1 のモデルが適応可能かどうか、検証することが必要である。

今後の課題

。

参考文献

柏野健次（2010）「モダリティ論序説―英語（準）助動詞の意味論―」『大阪樟蔭女子大学論集』第 47 号 19-30. 大阪樟蔭女子大学

Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.

Huschová, Petra. (2015). Exploring Modal Verbs Conveying Possibility in Academic Discourse. *Discourse and Interactio*n 8(2), 35-47.

Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum and Geoffrey Leech (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London, UK: Longman.

文献の書き方は別紙参照
日本語資料と英語資料を混ぜる。
アルファベット順にする。（日本語論文も先頭文字をローマ字表記してアルファベット順。）

資料

Social Media, *Britannica* https://www.britannica.com/topic/social-media（最終閲覧日：2026 年 2 月 27 日）

Why Davis Mills is happy the Texans unexpectedly picked him, *The New York Times* https://www.nytimes.com/athletic/2602287/2021/05/21/it-could-turn-into-something-why-davis-mills-is-happy-the-texans-unexpectedly-picked-him/（最終閲覧日：2026 年 3 月 1 日）

web 資料もアルファベット順に並べる。

参考文献リストの作り方（言語学・英語学編）

【日本語文献】

1. 著書の場合

著者名（フルネーム）（発行年の西暦）『書名』出版社

（例）浅羽通明（1996)『大学で何を学ぶか』幻冬社

※ 著者が複数の時は「・」で繋ぐ（以下、著書が複数の場合は同様に扱う）

（例）竹内京子・木村琢也（1997)『たのしい音声学』くろしお出版

2. 論集などの著書（編者がいるもの）の一部に言及する時

著者名（フルネーム）（発行年の西暦）「論文タイトル」著書の編者名『書名』ページ番号 出版社

（例）串本真志（2002）「学生生活と無気力論」溝上慎一（編）『大学生活論―戦後大学生論の系譜をふまえて―』67-84．ナカニシヤ出版

※ ２行以上になるときは２行目以降を「全角３字分」ぶら下げインデント

3. 雑誌・紀要論文

筆者名（フルネーム）（発行年の西暦）「タイトル」『雑誌名』巻号 掲載ページ 出版元（学会名、大学名）

（例）松本茂・山本裕子・橋場諭（2010）「アドミッション・ポリシーの現状と課題に関する考察―円滑な高大接続を目指して」『立教ビジネスレビュー』第３号 122-135．立教大学経営学部

4. 新聞記事（紙の新聞、新聞社のオンラインデータからの場合）

作成者名（発行年）「記事の見出し」『新聞名』（発行日）面

※ 署名記事の場合は名前を書く。そうでない場合は「記事の見出し」から書く。

（例）菅原啄（2012)「停滞は参院のせいなのか」『朝日新聞』朝刊（2012 年 23 日）19 面

5. 新聞記事（インターネットからの引用）

「記事の見出し」『新聞名』（掲載日） 閲覧したサイトの URL（最終閲覧日）

（例）「９割が「大谷姓」の集落から農家の「大谷さん」作の新「大谷米」で応援…偶然にも郵便番号も「侍」とドジャースと関わり」（2026 年３月４日）
https://www.yomiuri.co.jp/sports/wbc/20260301-GYT1T00225/（最終閲覧日：2026 年３月４日）

6. Web 記事

作成者「Web 記事の見出し」『Web ページのタイトル』（掲載日） 閲覧したサイトの URL（最終閲覧日） ※ 作成者がない場合は省略してもよい。ただし、作成者が明記されない記事は信用度が低い。

「役割語とは何か？役割語研究についての紹介」『旅する応用言語学』(2023 年 2 月 2 日) https://www.nihongo-appliedlinguistics.net/wp/archives/100（最終閲覧日：2026 年３月４日）

【英語文献】

1. 著書の場合

著者名（フルネーム：ファミリーネーム, ファーストネームの順.）（発行年の西暦）書名（イタリック） 出版地（都市名, 州・国名（の略称））：出版社名 ）

（例）Pinker, Steven (2013) *Language, cognition, and human nature*. New York, NY: Cambridge University Press.

※ 書名は最初の語句のみ大文字。最初の語が機能語（冠詞や前置詞）の場合はそれも大文字で次の単語も大文字。

（例）Talmy, Leonard (2017) *The Targeting system of Language*. Cambridge, Mass.: MIT Press.

※ 著者が複数の時の著者名は最初の人は「ファミリーネーム, ファーストネーム」、ふたり目以降は「ファーストネーム ファミリーネームの順」。あとは and の使用ルールに従って結ぶ。

（例） Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, and Jan Svartvik (1985) *A Comprehensive grammar of the English language. London*, UK: Longman.

2. 論集などの著書（編者がいるもの）の一部に言及する時

著者名（フルネーム：ファミリーネーム, ファーストネームの順.）（発行年の西暦）論文タイトル. 著書の編者名（フルネーム：ファミリーネーム, ファーストネームの順.）書名（イタリック） ページ番号 出版地（都市名, 州・国名（の略称））：出版社名 ）

（例）Alexiadou, Artemis and Terje Lohndal (2017) On the division of labor between roots and functional structure. D'Alessadro Roerta, Irene Franco, and Angel J. Gallego(eds.) *The Verbal domain*. 85-104. Oxford, UK: Oxford University Press.

※編者がひとりの場合は(ed.)、複数の場合は(eds.)を使う。

3. 雑誌・紀要論文

著者名（フルネーム：ファミリーネーム, ファーストネームの順.）（発行年の西暦）論文タイトル. 雑誌名（イタリック）巻・号. ページ番号.

（例）Ostrove, Jason (2026) Obligatorily Overt PRO in San Martín Peras Mixtec. *Linguistic Inquiry* 57-1. 1-48.

4~6（は日本語と同様に記載）最終閲覧日は [accessed Month, Year]で記載（月と年だけでいい）

【上の（例）を並べると・・】

＜参考文献＞

Alexiadou, Artemis and Terje Lohndal (2017) On the division of labor between roots and functional structure. D'Alessadro Roerta, Irene Franco, and Angel J. Gallego(eds.) *The Verbal domain*. 85-104. Oxford, UK: Oxford University Press.

浅羽通明（1996）『大学で何を学ぶか』 幻冬社

串本真志（2002）「学生生活と無気力論」 溝上慎一（編）『大学生活論―戦後大学生論の系譜をふまえてー』 67-84. ナカニシヤ出版

松本茂・山本裕子・橋場諭（2010）「アドミッション・ポリシーの現状と課題に関する考察―円滑な高大接続を目指して」『立教ビジネスレビュー』 第３号 122-135. 立教大学経営学部

Ostrove, Jason (2026) Obligatorily Overt PRO in San Martín Peras Mixtec. *Linguistic Inquiry* 57-1. 1-48.

Pinker, Steven (2013) *Language, cognition, and human nature*. New York, NY: Cambridge University Press.

Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, and Jan Svartvik (1985) *A Comprehensive grammar of the English language. London*, UK: Longman.

竹内京子・木村琢也（1997）『たのしい音声学』くろしお出版

Talmy, Leonard (2017) *The Targeting system of Language*. Cambridge, Mass.: MIT Press.

＜資料＞

「９割が「大谷姓」の集落から農家の「大谷さん」作の新「大谷米」で応援…偶然にも郵便番号も「侍」とドジャースと関わり」（2026 年３月４日）
https://www.yomiuri.co.jp/sports/wbc/20260301-GYT1T00225/（最終閲覧日：2026 年３月４日）

「役割語とは何か？役割語研究についての紹介」『旅する応用言語学』（2023 年 2 月 2 日）
https://www.nihongo-appliedlinguistics.net/wp/archives/100（最終閲覧日：2026 年３月４日）

最後に・・

(1) 文献リストに記載するものは「本文中で言及した文献・資料のみ」です。テーマを考えるときに読んだ文献や資料は入れてはいけません。（入れたかったら本文中でそのことに言及する。）

(2) 正しく文献・資料の情報を書かないと「剽窃」とみなされることがありますので注意して下さい。

(3) どのように記載するのがよいのか迷った場合はゼミ担当教員に質問してください。

3) 英語教育学・応用言語学（APA スタイル）

第 1 章 序論 章見出し：MS ゴシック・18 ポイント・太字

1.1 第二言語習得と動機づけ 小見出し：MS ゴシック・10.5 ポイント・太字

第二言語（Second Language: L2）学習において、動機づけは学習成果を左右する重要な要因の一つである。Dörnyei (2001) が指摘するように、一般に学習の動機づけは、学習者がどの程度学習に努力を投入するか、どの程度長期[illegible]学習を継続するかなどに大きく影響する心理的要因である。第二言語習得研究（Second Language Acquisition: SLA）では、学習者の動機づけが高い場合、結果として言語能力の向上につながることが知られている（Gardner & Lambert, 1972）[1] さらに・・・。

出典表示

注番号。

近年の国際化にともなう L2 学習の重要性の高まりとともに、SLA 学習者の動機づけは研究も急速に発展してきた。1970 年代初頭、Gardner and Lambert (1972) は L2 Motivation（第二言語学習の動機づけ）に言及し、その後 Gardner (1985) の社会教育モデルは、第二言語学習における動機づけを「統合的動機（integrative motivation）」と「道具的動機（instrumental motivation）」の二つに分類した。統合的動機とは・・・。

1.2 日本の学校教育における動機づけの現状

日本の英語教育の文脈においては、大学入試制度の影響が学習者の動機づけに大きく関係している。多くの日本人高校生にとって英語学習の主な目的は・・・。

1.3 ○○○

1.X 本論文の構成 論文の構成を明示する。

本論文の構成は以下の通りである。第 1 章では序論として、研究の背景および問題意識を述べ、日本の英語教育における学習者動機づけ研究の重要性を整理する。第 2 章では、英語教育学を中心に SLA における動機づけの先行研究を概観する。第 3 章では・・・。第 4 章では・・・。第 5 章では・・・。第 6 章では・・・。最後に、第 7 章では本研究の結論をまとめるとともに、教育的示唆および今後の研究課題について述べる。

脚注

[1] Gardner (1985)の社会教育モデルでは、言語学習は学習者の態度、動機づけ、社会的環境など複数の要因によって影響を受けるとされている。脚注 10.5 ポイント

第 2 章 先行研究

2.1 第二言語習得研究における動機づけ研究

SLA において、学習者の動機づけは学習成果に影響を与える重要な要因として広く研究されてきた。その結果、学習者がどの程度学習に努力を投入するか、またどの程度長期間にわたり学習を継続するかは、学習者の動機づけに大きく依存することが判明している（Dörnyei, 2001）。

第二言語にとどまらず、学習の動機づけについて研究は社会心理学の分野で始まった。Gardner（1985）によれば、最初に提起されたのは・・・。

2.2 動機づけ研究の近年の展開

第二言語学習における動機づけ研究は、特に 1990 年代以降急速に進展した。それまでは上述の社会教育モデルに基づき、動機づけを固定的な心理特性として捉える傾向があったが、近年では動機づけを学習環境や学習経験によって変化する動的なプロセスとして理解する観点が有力となっている。Dörnyei（2009）では・・・。

2.3 日本における英語学習動機研究

日本における英語学習動機の研究は、教育制度や学習環境が学習者の動機づけに与える影響が重要な研究テーマとなる傾向にある。特に大学入試が大きな役割を果たしており、そのため八島（2004）が示唆したように、日本の学習者には・・・。

先行研究の問題点・課題を明示。
そこに論文の議論を位置づける。

2.4 先行研究の課題

先行研究から、英語学習における動機づけは学習成果に重要な役割を果たすことが明らかになっている。しかし、多くの研究は単一時点での調査に基づく横断研究であり、動機づけが時間の経過とともにどのように変化するのかについては十分に明らかにされていない。特に日本の高校生を対象とした研究では、高校 3 年間という学習期間の中での動機づの変化を縦断的に分析した研究は限られている。高校 1 年から 3 年まで同一の学習者を追跡し、学習動機の変化を明らかにすることは、日本の英語教育における学習者理解を深める上で重要な課題である。

このような研究の現状に鑑み、本論文は・・・・

第 3 章　研究の目的とリサーチクエスチョン

3.1 研究の目的

前章で概観したように、第二言語習得研究において学習者の動機づけは学習成果を左右する重要な要因として広く研究されてきた。。また、近年の研究では・・・。日本の英語教育の文脈においては・・・。

しかしながら、英語を実際のコミュニケーション手段として認識する機会が増えることにより、高校生学習者の英語学習に対する意識が変化する可能性も考えられる。このような観点から、高校 3 年間という学習期間の中で学習者の動機づけがどのように変化するのかを明らかにすることは・・・。そこで本研究では・・・を検討する。

リサーチクエスチョンを設定する。

3.2 リサーチクエスチョン

本研究の目的を達成するために、以下のリサーチクエスチョン（RQs）を設定する。

RQ 1: 日本人高校生の英語学習における統合的動機は、高校 1 年次から 3 年次にかけてどのように変化するか。

RQ 2: 日本人高校生の英語学習における道具的動機は、高校 1 年次から 3 年次にかけてどのように変化するか。

RQ 3: ○○○。

以上の RQs を検討することにより、本研究は高校 3 年間の学習期間における動機づけの変化を明らかにし、日本の英語教育における学習者の心理的特徴を理解するための基礎資料を提供することを企図する。また・・・。

第 4 章 研究方法

4.1 調査対象

研究の対象者は東海地方の公立高校に在籍する生徒 120 名である。対象者は高校 1 年次から 3 年次まで同一の生徒を追跡する形で調査に参加した。[2] 調査は各学年の学年末に実施され・・・。

4.2 調査方法

質問紙調査を各学年末に実施した。質問紙はリッカートスケール（1〜5）で構成され、統合的動機、道具的動機、英語不安、自己効力感を測定した。得られたデータの分析には統計的手法を用いた。まず各項目について記述統計（平均値および標準偏差）を算出し、学年ごとの傾向を把握した。その上で、学年間の差を検討するために *t* 検定 を用いて統計的に有意な差が存在するかを分析した。具体的には、高校 1 年次と高校 3 年次の平均値を比較し、統合的動機、道具的動機、英語不安、および自己効力感において有意な変化が見られるかを検討した。有意水準は 5%（$p<.05$）とした。これにより統計的に意味のある変化であるかどうかを十分な蓋然性をもて示すことができた。

4.3 ○○○

[2] 本研究では三年間にわたり同一の生徒を追跡しているが、転校などの理由により一部の回答者は調査期間中に分析対象から除外されている。

第 5 章 調査結果

5.1 調査結果の概要

本章では、本研究で実施した質問紙調査の結果について報告する。英語学習における統合的動機、道具的動機、英語不安、および自己効力感の 4 つの側面についての調査結果を示したうえで、それぞれの項目について学年ごとの平均値を算出した。

まず、各項目の平均値および標準偏差を算出し

その結果、統合的動機および自己効力感について

する傾向が見られた。一方で、英語不安については

図と表にはそれぞれ通し番号をつけ、キャプションを添える。

図 1 統合的動機の変化

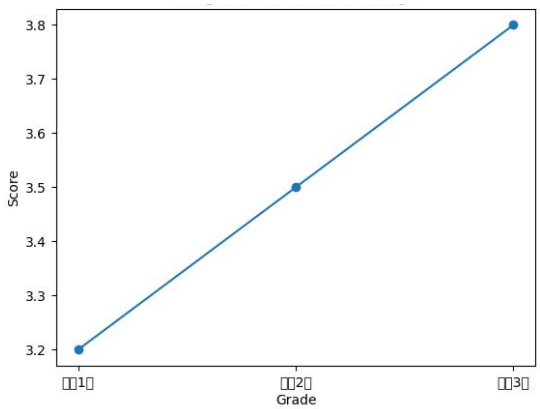

表 1 英語学習動機に関する各項目の平均値と標準偏差

項目	高校1年 (M)	高校1年 (SD)	高校2年 (M)	高校2年 (SD)	高校3年 (M)	高校3年 (SD)
統合的動機	3.21	0.68	3.45	0.72	3.78	0.7
道具的動機	3.84	0.65	3.67	0.69	3.42	0.71
英語不安	3.52	0.74	3.28	0.7	2.95	0.66
自己効力感	3.03	0.71	3.29	0.73	3.61	0.69

5.2 ○○○

5.3 ○○○

研究を振り返り、まとめる。

第 7 章 結論

7.1 研究のまとめ

本研究では、日本人高校生の英語学習における動機づけが高校 1 年次から 3 年次までの 3 年間においてどのように変化するのかを明らかにすることを目的とし、統合的動機、道具的動機、英語不安、および自己効力感の観点から縦断的に検討を行った。本研究では、同一の高校生を対象として質問紙調査を実施し、学年の進行に伴う心理的要因の変化を分析した。

分析の結果、統合的動機は・・・傾向が見られた。これは、高校生活を通じて英語を単なる教科科目としてではなく、コミュニケーションの手段として認識するようになる生徒が増える可能性を示唆している。また・・・。

一方で、道具的動機については・・・。

さらに、英語不安は・・・。

以上の結果から、日本人高校生の英語学習動機は高校 3 年間の学習過程の中で・・・ことが明らかとなった。

研究の学術的意義・社会的意義を述べる。

7.2 本研究の意義

本研究の結果は、日本の高校英語教育において学習者の心理的側面を理解するための基礎的知見を提供するものであり、学習者の動機づけを維持・向上させる教育的支援の重要性を示唆している。具体的には・・・。

研究の限界を示し、今後期待される研究を書く。

7.2 本研究の限界と今後の課題

本研究にはいくつかの限界がある。第一に、本研究の調査対象は特定の地域に所在する 1 つの公立高校の生徒に限定されており・・・。第二に・・・。第三に・・・ことが期待される。以上のような課題を踏まえ、今後の研究ではより多様な研究方法と対象を用いることにより・・・。

これらの研究の蓄積は、日本の英語教育における効果的な指導方法の検討に貢献するものと考えられる。

参考文献

著者の姓のアルファベット順に並べる。

Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge University Press.

Gardner, R. C. (1985). *Social psychology and second language learning*. Edward Arnold.

Gardner, R. C., & Lambert, W. E. (1972). *Attitudes and motivation in second-language learning*. Newbury House, 1972.

Goldman, A. (2016). A meta-analysis of test format effects on listening test performance: Focus on multiple-choice and open-ended formats. *Language Testing, 20*(1), 219–250. https://doi: 10.1037/0278-6133.24.2.225

村野井 仁（2006）第二言語習得研究の理論と英語教育への示唆.『外国語教育研究』9, 1–15.

中島 和子（2010）『第二言語習得と英語教育』大修館書店.

Ryan, S. (2009). Self and identity in L2 motivation in Japan. *Language Teaching, 42*(2), 120–136.

田尻 悟郎（2012）『英語教育と学習者動機』研究社.

Ushioda, E. (2013). *Motivation and ELT: Global issues and local concerns*. Routledge.

八島 智子（2004）日本人英語学習者の動機づけと国際的志向性.『JACET Bulletin』38, 1–14.

参考文献・References の書き方の詳細は、以下の 2 書に基づきます：

『APA 論文作成マニュアル』第 3 版、前田樹海・江藤裕之訳、医学書院、2023 年。

Publication Manual of the American Psychological Association. 7th edition, American Psychological Association, 2020.

4) 文化研究 (1. MLA スタイル)

章見出し：ページをあらため、先頭から始める。太字、ゴシック、14 ポイント

第 1 章　序論

小見出し：太字、ゴシック、10.5 ポイント

1.1　『ゴジラ』映画の概要

（本文 MS 明朝＋Times New Roman、10.5 ポイント）恐竜のような外見、体長は 50m を

注番号・上付き文字

な形の背鰭が発光すれば、口から高火力の熱線を吐く。もちろん現実にそのような生物はいないが、スクリーンの中では確かに今も存在し続けている。1954 年 11 月 3 日、東宝[1]によ

研究書への言及。文末に（　）内に該当するページ番号を表示。

れまでの怪獣映画の常識を覆した、日本だけでなく世界の怪獣映画の金字塔と呼ばれる作品だ。池田『アメリカ人の見たゴジラ　日本人の見たゴジラ』が詳述している

研究書の該当ページ番号

はこれまで 30 作品が公開された他、海外、特にアメリカにおいて数々のリメイ　を生み出し、その

作品名の略記

として今も多くの人々に知られている（20-21）。

そんな『ゴジラ』は、2023 年 11 月に公開 70 周年を迎え、その記念として公開されたのが本稿のテーマとなる『ゴジラ−1.0』だ（以降、本作を『−1.0』と記す）。英語版 Wikipedia に記載されているように、『−1.0』は、1954 年の元祖『ゴジラ』を彷彿とさせるストーリーと高

英語版 Wikipedia 記事の出典表示（Wikipedia の利用の可否については指導教員に確認すること。）

ヒットとなり、アメリカでも約 57

記録を更新した。そして 2024 年に、映画界で最も権威あるアカデミー賞の視聴効果賞を授賞した（“Godzilla Minus One,” *Wikipedia*）。このようにゴジラは今や世界的な文化的アイコンとなり、〔・・・後略〕。

1.2　研究の背景

ゴジラ映画についてはこれまで研究の積み重ねがある。一般愛好者を対象にした記事や書籍は数多く出版されており、サーフライダー21『ゴジラ研究序説』、　野間・他『ゴジラ研究読本』などはそうした愛好家的関心の結実であると言えるだろう。学術研究でも、1954 年の『ゴジラ』公開以来、『映画研究』や各大学の紀要等に継続的に論文が発表されている。研究書も出版されており、小野『ゴジ

英語研究書への言及

ジラ』へ』はその代表である。英語圏の学術的関心も高く

毎年論文が発表されている他、21 世紀になってからは、Tsutsui, *Godzilla on My Mind* や Bar, *The Kaiju Film* などの研究書が著された。また、こうした作品研究や背景研究に加え、池田淑子は『アメリカ人の見たゴジラ　日本人の見たゴジラ』において、アメリカをはじめ海外におけるゴジラ映画の受容という研究分野を切り拓いた。池田はさらに『ゴジラは自然の逆襲か？』において環境文化研究の観点からゴジラを見る新しい視点を提起している。〔・・・後略〕。

このようにゴジラ映画に関する研究は多くなされているが、本稿の主要なテーマとなる『−1.0』は新しい作品であり、公開からあまり時間が経過していない関係で、本稿執筆の時点で本格的な研究はまだなされていない。しかし作品としても、文化現象としても重要であり、上述のように公開当初から非常に高く評価されていることから、研究対象として取り上げるべきであろう。〔・・・後略〕。

1.3 本研究の構成

本稿では、国際的な展開を見せてきた過去のゴジラ作品を振り返るとともに、その文脈の中にこの最新作のゴジラ作品を位置付け、あわせてそれが特にアメリカという異文化における文化的需要にど　　していく。特に本稿では、最新作の『−1.0』がどのようにアメリカで評価こ　　のかが重要な要素となる。実際にアメリカの観客、視聴者の声を聞くことが最も信憑性ある　　だといえるが、現実的には大変困難である。そこで本稿では、アメリカの視聴者の評価として Rotten Tomatoes など、アメリカの映画評論サイトや批評家のブログ、YouTube など様々なメディアやコンテンツを使用し、可能な限りアメリカにおける『−1.0』のリアルな評価を検証する。

ウェッブサイト・ウェッブシステムへの言及

この後、第 2 章では・・・〔中略〕。第 3 章では・・・〔中略〕。第 4 章では・・・〔中略〕。最後に結論として、・・・〔中略〕。この一連の議論により、これまで明らかではなかった、海外における文化事象としてのゴジラの新しい一面が明らかになるだろう。

第３章 ○○○○○

章見出し：ページをあらため、先頭から始める。太字、ゴシック、14 ポイント

3.1 ○○○○

〔前略・・・〕本章では、アメリカ最大の映画批評サイト Rotten Tomatoes や世界最大の動画共有サービス YouTube における『−1.0』の評価を参考とする。特に Rotten Tomatoes は投稿数や閲覧数が圧倒的に多いことから、アメリカにおけるゴジラ作品の認識や評価を研究する際のもっとも信頼度の高いデータを提供していると考えられるからである。〔・・・後略〕。

ウェッブサイト中の記事の表示

〔前略・・・〕Rotten Tomatoes における一般の視聴者によるレビューは 5,000 件を超え、満足度の評価は 98%であった。また、本サイトの批評家によるレビューは 213 件で評価は 99%と、どちらも高い数値である（“Godzilla Minus One,” *Rotten Tomatoes*）。

まず全体を通して多かったのは、作品とそれを支える映像技術についての高評価である。以下のコメントが典型的である。

長い引用は本文から行空けして独立させる。

> The sense of scale created here cannot be understated: the action sequences are thrilling and monstrously terrifying, with the titular monster portrayed in a way that feels both familiar and totally unlike anything you’ve seen before, thanks to some astounding VFX work. (Murphy)

引用の出典表示（原則著者の姓を書く。）

そして“. . . this was made on a notably low budget for a film requiring this level of CGI—some $15m (£12m)” (Newland)、のように、CG などの優れた特殊効果が低予算で実現されていることへの賞賛も多かった〔・・・後略〕。

出典表示（原則著者の姓）

短い引用は本文に統合。

3.2 ○○○○

第 6 章 結論

『−1.0』がアメリカで高く評価され受け入れられたのは、単に本作が歴史的名作といえるほど優れた作品だからという理由だけではなかった。日本では、1954 年に公開した『ゴジラ』から、アメリカでは 1956 年公開の『怪獣王』からそれぞれゴジラの歩みは始まり、その適応力で時代ごとに合わせた姿に変化しながら、人々に愛される存在となっていった。日本ではどの時代も、多くの人がゴジラを見るために劇場に足を運んだ。だが、アメリカでは初めから本来の姿を変え、小規模の劇場公開を繰り返し、次第にその姿をテレビの中へと移した〔・・・後略〕。

注　見出し：ページをあらため、先頭から始める。太字、ゴシック、12 ポイント

1. 1932 年に設立された株式会社東京宝塚劇場を祖とする映画制作会社。1954 年当時は（株）東宝、現在は株式会社東宝が正式名称（「会社情報」『東宝株式会社』）。（MS 明朝・Times New Roman・10.5 ポイント）

2.

3.

参考文献（見出し：太字・MS ゴシック・12 ポイント）

映画（小見出し：太字・MS ゴシック・10.5 ポイント、時代順［50 音順でもよい］）

『ゴジラ』本多猪四郎監督，東宝，1954。

『キングコング対ゴジラ』本多猪四郎・円谷英二監督，東宝，1962。

Godzilla, King of the Monsters! Directed by Ishiro Honda, edited by Terry O. Morse, Toho and Jewel Enterprise, 1956.

Gigantis, the Fire Monster. Directed by Motoyoshi Oda and Hugo Grimaldi, Toho and Warner Brothers, 1959.

日本語文献（小見出し：太字・MS ゴシック・10.5 ポイント、50 音順）

池田淑子『アメリカ人の見たゴジラ日本人の見たゴジラ』大阪大学出版会，2019 年.

池田淑子『ゴジラは自然の逆襲か？』大阪大学出版会，2025 年.

小野俊太郎『新ゴジラ論：初代ゴジラから『シン・ゴジラ』へ』彩流社，2017 年.

「会社情報」『東宝株式会社』，https://www.toho.co.jp/company. 最終アクセス：2025 年 12 月 15 日.

サーフライダー21『ゴジラ研究序説』PHP 出版，1998 年.

野間典和・他『ゴジラ研究読本』パラダイム，2000 年.

年号表記のないウェッブ資料には、自分が最後にアクセスした日を書きそえる。

英語文献（小見出し：太字・MS ゴシック・10.5 ポイント、アルファベット順）

Barr, Jason. *The Kaiju Film: A Critical Study of Cinema's Biggest Monsters*. McFarland, 2016.

Callicott, J. Baird. *Thinking Like a Planet: The Land Ethic and the Earth Ethic*. Oxford UP, 2013.

"Godzilla Minus One." *Rotten Tomatoes*, www.rottentomatoes.com/m/godzilla_minus_one. Accessed 10 Jan. 2026.

"Godzilla Minus One." *Wikipedia*, en.wikipedia.org/wiki/Godzilla_Minus_One. Accessed 10 Jan. 2026.

Murphy, Jack. "Review: Godzilla Minus One." *Film IRELAND*, 18, Jan. 2024, www.filmireland.net/review-godzilla-minus-one/.

Newland, Christina." Godzilla Minus One is the cinema event of the year." *THEiPAPER*, 15 Dec. 2023, inews.co.uk/culture/film/godzilla-minus-one-review-cinema-event-of-year-2802020.

Rotten Tomatoes. www.rottentomatoes.com/. Accessed 12 Jan. 2026.

Tsutsui, William. *Godzilla on My Mind*. Griffin, 2004.

YouTube. https://www.youtube.com/. Accessed 12 Jan. 2026.

英語資料について

参考文献の書き方、本文中における出典の示し方は、原則として *MLA Handbook*, 9th edition (Modern Language Association of America, 2021)に基づきます。さまざま種類の参考文献（書籍、論文、e-book、e-journal、新聞記事、ウェッブ記事、テレビ番組、ブログ等）の表記のしかたについては、同書の pp. 313-46 に掲載されている表記例が参考になります。

より分かりやすい参考資料としては、MLA Style を簡略化した手引書、Mark Hatala, *MLA Made Easy: Your Concise Guide to the 9th Edition* (Greentop Academic Press, 2021)があります。また、MLA Style Center の Sample Essays のページに行けば、論文のサンプルが閲覧でき、出典の表示や参考文献の書き方の具体例が参照可能です（https://style.mla.org/sample-papers/）。

日本語資料について

原則として英語資料の表記にならいます。ただしイタリック体（*The Kaiju Film*）やダブルクォート（"Review: Godzilla Minus One"）は使わず、本のタイトルや長い作品については二重カギ括弧で（『』）、論文や記事、短編などの短いものは一重カギ括弧（「」）で表します。その他詳細については、指導教員の指示に従ってください。

5) 文化研究 (2. 注釈スタイル)

1

章見出し：ページをあらため、先頭から始める。太字、ゴシック、14 ポイント

第 1 章 序論

1.1 『ゴジラ』映画の概要（小見出し：太字、ゴシック＋Arial、10.5 ポイント）

（本文 MS 明朝＋Times New Roman、10.5 ポイント）恐竜のような外見、体長は 50m を超える巨体、そして背中の炎のよ[illegible]火力の熱線を吐く。もちろん現実にそのような生物は[illegible]に今も存在し続けている。1954 年 11 月 3 日、東宝[1]により公開された怪獣映画『ゴジラ』[2]はそれまでの怪獣映画の常識を覆した、日本だけでなく世界の怪獣映画の金字塔と呼ばれる作品だ。池田淑子『アメリカ人の見たゴジラ 日本人の見たゴジラ』が詳述しているように、ゴジラ映画は日本ではこれまで 30 作品が公開された他、海外、特にアメリカにおいて数々のリメイク版を生み出し、その多くは映画史に残る名作として今も多くの人々に知られている。[3]

注番号・上付き文字。以下同様。

そんな『ゴジラ』は、2023 年 11 月に公開 70 周年を迎え、その記念として公開されたのが本稿のテーマとなる『ゴジラ−1.0』[4]だ。英語版の Wikipedia に記載されているように、『−1.0』は、1954 年の元祖『ゴジラ』を彷彿とさせ[illegible]トーリーと高い映像技術が評価され、日本国内で興行収入 76 億円の大[illegible]アメリカでも約 5700 万ドルとアメリ[illegible]024 年に、映画界で最も権威あるアカデミー賞の視聴効果賞を授賞した。[5]このようにゴジラは今や世界的な文化的アイコンとなり、制作国の日本という枠組みを超えて〔・・・後略〕。

Wikipedia の利用の可否については指導教員に確認すること。

1.2 研究の背景

ゴジラ映画についてはこれまで研究の積み重ねがある。一般愛好者を対象にした記事や書籍は数多く出版されており、サーフライダー21『ゴジラ研究序説』、[6] 野真・他『ゴジラ研究読本』[7] などはそうした愛好家的関心の結実であると言えるだろう。学術研究でも、1954 年の『ゴジラ』公開以来、『映画研究』[8]や各大学の紀要等に継続的に論文が発表されている。研究書も出版されており、小野俊太郎[illegible]ン・ゴジラ』へ』[9]はその代表である。英語圏の学術的関心[illegible]、ほぼ毎年論文が発表されている他、特に 21 世紀になって William Tsutsui, *Godzilla on My Mind*[10] や Jason Bar, *The Kaiju Film*[11] などの研究書が著された。また、こうしたゴジラ映画を対象とする作品研究や背景研究に加え、池田淑子は前述の『アメリカ人の見たゴジラ 日本人の見たゴジラ』において、アメリカをはじめ海外におけるゴジラ映画の受容という新しい研究分野を切り拓いた。池田はさらに『ゴジラは自然の逆襲か？』[12] において環境文化研究の観点からゴジラを見る新し

英語研究書への言及

い視点を提起している。〔・・・後略〕。

このようにゴジラ映画に関する研究は多くなされているが、本稿の主要なテーマとなる『−1.0』は新しい作品であり、公開からあまり時間が経過していない関係で、本稿執筆の時点で本格的な研究はまだなされていない。しかし作品としても、文化現象としても重要であり、上述のように公開当初から非常に高く評価されていることから、研究対象として取り上げるべきであろう。〔・・・後略〕。

1.3 本研究の構成

本稿では、国際的な展開を見せてきた過去のゴジラ作品を振り返るとともに、その文脈の中にこの最新作のゴジラ作品を位置付け、あわせてそれが特にアメリカという異文化の文化的需要にどのように応えるものであったかを実証的に考察していく。特に本稿ではアメリカにおけ[illegible]、最新作の『−1.0』がどのようにアメリカで評価されているのかも重要[illegible]る。可能であれば、実際にアメリカの観客、視聴者の声を聞くことが最も信憑性ある手段だ[illegible]えるが、現実的には大変困難である。そこで本稿では、アメリカの視聴者の評価として Rotten Tomatoes[13] など、アメリカの映画評論サイトや批評家のブログ、YouTube[14] など様々なメディアやコンテンツを使用し、可能な限りアメリカにおける『−1.0』のリアルな評価を検証する。

ウェッブサイト・ウェッブシステムへの言及

この後、第 2 章では・・・〔中略〕。第 3 章では・・・〔中略〕。第 4 章では・・・〔中略〕。最後に結論として、・・・〔中略〕。この一連の議論により、これまで明らかではなかった、海外における文化事象としてのゴジラの新しい一面が明らかになるだろう。

第３章　〇〇〇〇〇

章見出し：ページをあらため、先頭から始める。太字、ゴシック、14 ポイント

3.1　〇〇〇〇

〔前略・・・〕本章では、アメリカ最大の映画批評サイト Rotten Tomatoes や世界最大の動画共有サービス YouTube における『−1.0』の評価を参考とする。特に Rotten Tomatoes は投稿数や閲覧数が圧倒的に多いことから、アメリカにおけるゴジラ作品の認識や評価を研究する際のもっとも信頼度の高いデータを提供していると考えられるからである。〔・・・後略〕。

〔前略・・・〕Rotten Tomatoes における一般の視聴者によるレビューは 5,000 件を超え、満足度の評価は 98%であった。また、本サイトの批評家によるレビューは 213 件で評価は 99%と、どちらも高い数値である。[1]

まず全体を通して多かったのは、作品とそれを支える映像技術についての高評価である。以下のコメントが典型的である。

長い引用。本文から行明けして独立させる。

> The sense of scale created here cannot be understated: the action sequences are thrilling and monstrously terrifying, with the titular monster portrayed in a way that feels both familiar and totally unlike anything you've seen before, thanks to some astounding VFX work.[2]

そして“. . . this was made on a notably low budget for a film requiring this level of CGI—some $15m (£12m)”[3] のように、CG などの優れた特殊効果が低予算で実現されていることへの賞賛も多かった。〔・・・後略〕。

短い引用は本文に統合。

3.2　〇〇〇〇

4

章見出し：ページをあらため、先頭から始める。太字、ゴシック、14 ポイント

第 6 章 結論

『−1.0』がアメリカで高く評価され受け入れられたのは、単に本作が歴史的名作といえるほど優れた作品だからという理由だけではなかった。日本では、1954 年に公開した『ゴジラ』から、アメリカでは 1956 年公開の『怪獣王』からそれぞれゴジラの歩みは始まり、その適応力で時代ごとに合わせた姿に変化しながら、人々に愛される存在となっていった。日本ではどの時代も、多くの人がゴジラを見るために劇場に足を運んだ。だが、アメリカでは初めから本来の姿を変え、小規模の劇場公開を繰り返し、次第にその姿をテレビの中へと移した〔・・・後略〕。

注

見出し：ページをあらため、先頭から始める。太字、ゴシック、12 ポイント

序章（小見出し：太字、MS ゴシック・10.5

注の書誌情報は（　）に入れる。

1. 1932 年に設立された株式会社東京宝塚劇場を祖[illegible]映画制作会社。1954 年当時は（株）東宝、現在は株式会社東宝が正式名称（「会社情報」『東宝株式会社』）。（MS 明朝・Times New Roman・10.5 ポイント）

2. 『ゴジラ』（本多猪四郎監督，東宝，1954 年）。

3. 池田淑子『アメリカ人の見たゴジラ日本人の見たゴジラ』（大阪大学出版会，2019 年），pp. 20-21.

作品名の略記

4. 『ゴジラ−1.0』（山崎貴監督，東宝，2023 年）。以降、本作は『−1.0』と略記する。

5. “Godzilla Minus One,” *Wikipedia*, (en.wikipedia.org/wiki/Godzilla_Minus_One).

6. サーフライダー21『ゴジラ研究序説』（PHP 出版，1998 年）。

7. 野真典和『ゴジラ研究読本』（パラダイム，2000 年）。

8. 『映画研究』（日本映画学会）。

9. 小野俊太郎『新ゴジラ論：初代ゴジラから『シン・ゴジラ』へ』（彩流社，2017 年）。

10. William Tsutsui, *Godzilla on My Mind* (New York: St. Martin’s Press, 2004).

11. Jason Bar, *The Kaiju Film* (Jefferson, NC: McFarland, 2016).

12. 池田淑子『ゴジラは自然の逆襲か？』（大阪大学出版会，2025 年）。

13. *Rotten Tomatoes* (www.rottentomatoes.com/).

14. *YouTube* (www.youtube.com/).

第 2 章（小見出し：太字、MS ゴシック・Arial・10.5 ポイント。）

1.

2.

第 3 章（小見出し：太字、MS ゴシック・Arial・10.5 ポイント。）

1. “Godzilla Minus One,” *Rotten Tomatoes* (www.rottentomatoes.com/m/godzilla_minus_one)の情報による。

2. Jack Murphy, “Review: Godzilla Minus One” (*Film IRELAND*, 18, Jan. 2024, www.filmireland.net/review-godzilla-minus-one/).

3. Christina Newland, “Godzilla Minus One is the cinema event of the year” (*THEiPAPER*, 15 Dec.

6

2023, inews.co.uk/culture/film/godzilla-minus-one-review-cinema-event-of-year-2802020).

第 6 章 結論（小見出し：太字、MS ゴシック・10.5 ポイント。）

1.

2.

参考文献・引用文献（見出し：太字、MS ゴシック・12 ポイント）

映画

小見出し：太字、MS ゴシック・10.5 ポイント、年代順［日本語：50 音順、英語：アルファベット順で

『ゴジラ』本多猪四郎、東宝、1954。

『キングコング対ゴジラ』本多猪四郎・円谷英二、東宝、1962。

Godzilla, King of the Monsters! Directed by Ishiro Honda, edited by Terry O. Morse. Tokyo: Toho; n.p.: Jewel Enterprise, 1956.

Gigantis, the Fire Monster. Directed by Motoyoshi Oda and Hugo Grimaldi. Tokyo: Toho; Burbank, CA: Warner Brothers, 1959.

日本語文献（小見出し：太字・MS ゴシック・10.5 ポイント、50 音順）

池田淑子『アメリカ人の見たゴジラ日本人の見たゴジラ』大阪大学出版会，2019 年.

池田淑子『ゴジラは自然の逆襲か？』大阪大学出版会，2025 年.

小野俊太郎『新ゴジラ論：初代ゴジラから『シン・ゴジラ』へ』彩流社，2017 年.

サーフライダー21『ゴジラ研究序説』PHP 出版，1998 年.

野間典和『ゴジラ研究読本』パラダイム，2000 年.

英語文献（小見出し：太字・MS ゴシック・10.5 ポイント、アルファベット順）

Barr, Jason. *The Kaiju Film: A Critical Study of Cinema's Biggest Monsters*. Jefferson, NC: McFarland, 2016.

Callicott, J. Baird. *Thinking Like* [illegible] d: Oxford University Press, 2013.

"Godzilla Minus One." *Rotten Tomatoes*, www.rottentomatoes.com/m/godzilla_min[illegible]one. Accessed 10 Jan. 2026.

"Godzilla Minus One." *Wikipedia*, en.wikipedia.org/wiki/Godzilla_Minus_One. Accessed 10 Jan. 2026.

Murphy, Jack. "Review: Godzilla Minus One." *Film IRELAND*, 18, Jan. 2024, www.filmireland.net/review-godzilla-minus-one/.

Newland, Christina. "Godzilla Minus One is the cinema event of the year." *THEiPAPER*, 15 Dec. 2023, inews.co.uk/culture/film/godzilla-minus-one-review-cinema-event-of-year-2802020.

年号表記のないウェッブ資料には、自分が最後にアクセスした日を書きそえる。

Rotten Tomatoes. www.rottentomatoes.com/. Accessed 12 Jan. 2026.

Tsutsui, William. *Godzilla on My Mind*. New York: St. Martin's Press, 2004.

YouTube. www.youtube.com/. Accessed 12 Jan. 2026.

注や参考文献のより詳し書き方は、ケイト L. トラビアン著，沼口隆・沼口好雄訳『シカゴ・スタイル―研究論文執筆マニュアル』（慶應義塾大学出版会，2012 年），pp. 201–302 を参照してください。

上記は英語文献について扱っていますが、日本語資料の場合も、原則として英語資料の表記にならいます。ただしイタリック体（*The Kaiju Film*）やダブルクォート（“Review: Godzilla Minus One”）は使わず、本のタイトルや長い作品については二重カギ括弧で（『』）、論文や記事、短編などの短いものは一重カギ括弧（「」）で表します。その他詳細については、指導教員の指示に従ってください。

9. 参考文献・資料

言語学・応用言語学・英語教育学の書式・スタイル

『APA 論文作成マニュアル』第 3 版、前田樹海・江藤裕之訳、医学書院、2023 年。

言語学や応用言語学、英語教育学などの論文が準拠する形式を定めた *Publication Manual of the American Psychological Association*, 7th edition の和訳版。

Publication Manual of the American Psychological Association. 7th edition, American Psychological Association, 2020.

言語学や応用言語学、英語教育学などの論文が準拠する形式を定めたハンドブック。研究の取り組み方や、論文英語の書き方、不正防止の方法などについても言及している。

文化研究・文学研究の書式・スタイル

The Chicago Manual of Style. 18th Edition, U of Chicago P, 2024.

伝統的な「注釈スタイル」による参照形式を含む、複数の論文形式を網羅したスタイルマニュアル。

Hatala, Mark. *MLA Made Easy: Your Concise Guide to the 9th Edition*. Greentop Academic Press, 2021.

文化研究の論文が使う形式を定めた *MLA Handbook* を簡略化したもの。

MLA Handbook. 9th edition, Modern Language Association of America, 2021.

文化研究の論文が使う形式を定めたハンドブック。

さまざまな分野を網羅した書式・スタイルの解説サイト

Purdue OWL. College of Liberal Arts, Purdue University, https://owl.purdue.edu/owl/index.html.

APA、MLA、文書・注釈スタイルなど、各種の論文の書式を案内するウェッブサイト。

卒論の書き方参考書

斎藤理生 他『卒業論文マニュアル―日本近現代文学編』ひつじ書房，2022 年。

日本文学や日本のポピュラーカルチャー（映画、ゲーム、アニメ等）を題材とした卒論を書くためのマニュアル。研究のやり方や文章の書き方は、英米語学科で文化論を学修している人にも参考になる。

渡辺潤・宮入恭平 編著『「文化系」学生のレポート・卒論術』青弓社、2013 年。

レポートから卒論までカバーするとても読みやすいガイドブック。出版年次は少し古いが、文章の書き方から論文のトピックやテーマの選び方まで、現在でも大いに参考になる内容。

英語論文の書き方の参考書

Hacker, Diana, and Nancy Sommers. *Rules for Writers*. 7th edition, Bedford, 2012.

アメリカの大学で使われる、標準的なライティングガイドブック。APA 方式や MLA 方式も意識している。

Swales, John M., and Christine B. Feak. *Academic Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills*. 3rd edition, U of Michigan, 2012.

論文で使う英語の文体や表現についての教科書。“Language Focuses”のセクションを拾い読みするだけでも価値がある。

付録

1. 「学生のための研究倫理について」『学生便覧』令和７年度版

9．学生のための研究倫理について

1．学生は研究者、正しい心得が求められる

学生の皆さんは、大学へ入学されたときから、高校時代までのように教科書通りに勉強をするだけの「生徒」では**ら研究を行う「学生」になった**のです。**大学**は、**教育機関**であり、**研究機関**でもあります。**学生**は、授業を受けて専触れるだけでなく、学んだ専門知識を駆使して**研究する能力も学ぶ**のです。**学生**も研究活動に従事するときは「**研究**て扱われます。「**研究者**」は、学生であっても、教員であっても、**正しい心得を持って研究していく**ことが強く求めらす。この**正しい心得**のことを大学内では『**研究倫理**』あるいは『**行動規範**』と呼んでいます。

2．研究とは何か、研究倫理とは何か

研究とは、**自ら**が**問題を発見**し、**自ら**がその**問題を解決**する**営み**のことだと捉えてください。研究によって明らか問題解決方法や結果データは、論文として公表されて世間に知られることで、社会貢献となります。研究がなされてげで、人の社会が発展してきました。

研究者は、研究成果である**論文**が**世間に認められて**、**実績**を得ます。**学生**は、調べて研究して学び得た成果を**レポート**にまとめて、そのレポートが教員から審査・採点をされ、**合格基準を超えたと認められて**、**単位（能力実績）**を修得します。レポートが学生にとっての研究（学び）の成果なのです。

倫理とは、人間生活の秩序つまり人倫の中で踏み行うべき規範の筋道、と国語辞書で説明されています。すなわち、**人のあるべき姿**や、**人として守るべきこと**、です。心得や道徳と言っても良いです。**研究倫理**とは、研究者のあるべき姿、研究者が研究をするときに守るべき規則のことです。

3．研究（学び）は誠実に・公正に（不正なく）行われるべき

研究・学問を自己利益の拡大のためだけに誤用・悪用して、研究行為やその成果が社会の中で信頼を失ってしまう事件が、増加してきています。特に以下に示す行為が目立ってきており、研究上でやってはいけないこととして研究不正と呼ばれています。

＜研究不正の種類＞

◇　**捏造（Fabrication）**

①　存在しないデータを都合良く作ること。

◇　**改ざん（Falsification）**

①　データの変造や偽造。クッキングやトリミングも含む。

②　研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。

◇　**盗用・剽窃（Plagiarism）**

①　他人のアイデアやデータ、研究成果を適切に引用しないまま使用すること

②　他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること。文章やデータのコピー＆ペーストも含まれる。

学生は、レポートを作成する際に、これらの研究不正に当てはまるような行為を行ってはいけないということを肝に銘じてください。簡単な例を示せば、インターネットの情報をほとんど吟味せずにレポートに丸写ししてしまうのが、不正コピー（盗用）ということです。レポートに不正があると見なされたときは、懲戒処分となるほどの厳重な扱いを受けることもあることに留意してください。

研究者の研究（論文）も、学生の学び（レポート）も、“誠実に”、“公正に”行われることが求められています。“誠実に”というのは、嘘や不正コピーが無いことを意味します。“公正に”というのは、客観性（誰が見ても同じ解釈ができる）や正確性・信頼性（正しく確かであり、信じられる）があるということを意味します。

研究や教育（人材育成）を行っている大学は、社会からの信頼を得るために、様々な規範・ルールを作り直してきています。現在ある様々な規範・規則・ルールを守っていくようにしてください。

学生のための研究倫理について

4．個人情報保護、インフォームドコンセント（説明と同意）

研究や学びを行っていく際に、他人の個人情報・データを収集したり分析したりすることがあります。他人の個人情報を扱うときに、個人情報保護法に則ってデータを扱い管理する必要があります。学生も大学内で人を対象にして研究に携わるときは研究者として扱われますから、人の情報の扱い方に関する法律や手法を熟知しておく必要があります。以下に法律の概要を簡単に説明しますが、学生は自ら調べて詳細を把握するよう努めてください。

個人情報保護法は、利用者や消費者が安心できるように、企業や団体に個人情報を大切に扱ってもらった上で、有効に活用できるよう共通のルールを定めた法律です。個人情報とは如何なるものを指すのかが法律上で明確に定義されています。個人情報とは、生存する個人に関する情報であって、氏名や生年月日等により特定の個人を識別することができるものをいいます。個人情報には、他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものも含みます。以下に具体例を示します。

◇　**個人識別符号**

①　生体情報を変換した符号として、DNA、顔、虹彩、声紋、歩行の態様、手指の静脈、指紋・掌紋

②　公的な番号として、パスポート番号、基礎年金番号、免許証番号、住民票コード、マイナンバー、各種保険証、等

これら個人情報を扱う際には、研究の対象者から情報を得るときに、インフォームドコンセント（説明と同意）が必要になります。そして、研究内容を公表する際に、これら情報から個人を特定できないように匿名化しておく必要があります。さらに情報漏洩を防止するために、厳重な管理が必要です。管理方法については、教員の助言を受けながら学んでください。

2. 教育・研究における生成系 AI（人工知能）利活用に関するガイドライン

（https://www.tokoha-u.ac.jp/media/20240213_seiseiAI-guideline.pdf）

教育・研究における生成 AI（人工知能） 利活用に関するガイドライン

2024 年 2 月 13 日 制定

1. 本ガイドラインの目的

本ガイドラインは、常葉大学及び常葉大学短期大学部（以下、本学）の教育・研究活動における生成 AI（人工知能） の利活用について、厳守すべき事項及び注意すべき事項を示したものです。大学とは、これまでの常識や知識では解決できない未知の問題と向き合い、自らその解決策を求めて探求し続ける場であり、新たに得られた知見を積極的に発信していくところでもあります。適切な生成 AI の利活用は、本学での探究・発信活動に留まらず、人材不足の解消を含む事務作業の効率化等、これからの社会ツールとして幅広く利活用される可能性も考えられていますが、学問的誠実性や法的・倫理的な観点からはまだ数多くの議論が進行中です。

なお、本学としては、今後も国内外の高等教育機関の事例収集や学内での意見聴取等を行い、適宜見直しや検討を続けていきます。関係の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

2. 本ガイドラインが対象とする生成 AI

本ガイドラインは、LLM（大規模言語モデル）を用いたテキスト生成 AI（ChatGPT、Bing Chat、Google Bard 等）、及び、生成 AI によって機能拡張されたソフトウェア等を対象とします。なお、今後の技術的・社会的動向に応じてテキスト生成型以外の生成 AI の取り扱いについても必要に応じて検討し通知することといたします。

3. 生成 AI 利活用に関するガイドライン

3.1. ガイドラインの位置づけ

生成 AI を効果的に活用することで、学生の学修効果の向上や教職員の業務効率化等を図ることが可能になるといった効果が期待される一方で、生成 AI の利用者には、AI 技術の扱い方や問題点・限界等に関する理解、さらには高い倫理観や自分自身で考えて行動することなどが求められています。本ガイドラインでは、生成 AI を利活用する上での厳守すべき事項ならびに注意すべき事項等を示しましたので、本内容を参考に、生成 AI の効果的活用法についてご検討ください。

3.2. 学生向けガイドライン

①生成 AI で得られた情報には誤った内容が含まれていることがあります。複数の情報源から誤りが無いことを確認し、得られた情報の正しさを自ら検証するようにしましょう。

②生成 AI に入力した情報は、意図せずして漏洩・流出してしまう可能性があります。個人情報などの機密情報は入力しないようにしましょう。

3. 「注意事項：AI 生成文書および翻訳ソフトの使用に関する指針」

【注意事項：AI生成文書および翻訳ソフトの使用に関する指針】

英米語学科の学生のみなさんへ

英語の学習において、様々なツールやリソースを活用することは素晴らしい取り組みですが、注意が必要です。以下に、AI生成文書および翻訳ソフトの使用に関する英米語学科の重要な指針を示します。

1. AI生成文書の使用に関して
　AI生成文書（ChatGPTなど）は便利なツールですが、その出力は常に正確で信頼性がありません。文章の文法的正確性や文脈に合った適切な表現が得られるとは限りません。また、作成された文書の中には著作権を無視するものも含まれる可能性があるため、法令違反の可能性があります。AI生成文書は個々の学習プロセスを補完するために使用するべきであり、学習や課題の代替手段としてではありません。

2. 翻訳ソフトの使用に関して
　翻訳ソフトもまた、便利なツールですが、完全な置き換えとしては適切ではありません。特に、英語学習の場合は自身での翻訳作業が重要です。翻訳ソフトを自身が作成した英文の正しさを検証する際に使用するのは問題ないですが、その出力をさらに自身で検証し、表現の適切性を確認することが重要です。

最後に
　英米語学科では、授業の課題・レポート・プレゼン資料等の作成においてAI生成文書や翻訳ソフトの使用は、原則、禁止します。（ただし、例外的に一部の準備作業にこれらのツールを許可する授業もありますので、その場合は担当教員の指示に従ってください。）**これらのツールを使用した場合、また、それが発覚した際には厳正な措置を取りますので、注意してください**。

英語スキルの習得は継続的な努力と学習によってのみ達成されます。AIや翻訳ソフトは自主学習の補助ツールとして利用することは良いことですが、自身の課題やレポート作成を代替してくれる便利屋ではありません。ツールを利用する際は、上記のルールを心がけてください。不明な点は指導教員または各授業の担当教員に質問してください。

2024.3.22
英米語学科